

平成30年度第1回学校教育審議会における意見の整理

平成30年度第1回学校教育審議会における意見・感想等を以下のとおり整理しました。なお、整理にあたって、文章の分割や簡略化、同種の意見の統合等を行っています。

| 分類 | No. | 意見の内容 |
|-------------------|-----|---|
| 学校施設の目指すべき姿に関する意見 | 1 | 提示された修正案は、委員意見が十分にふまえられている。ただし、これは「理想像」であって、このとおりに進めていくことは現実的には困難であり、絞り込んでいく必要がある。 |
| | 2 | 柱立ての2～4は、「施設整備の考え方」の「3 多様なニーズへの対応を図る」に集約されており、費用対効果や実現可能性等をふまえながら検討するという扱いとなっているが、このままでは現状と大きく変わらないのではないか。「目指すべき姿」において、柱立ての1～4は等しく重要であるという旨の前文が必要ではないか。 |
| | 3 | 「施設整備の考え方」に従い、「目指すべき姿」についても「安全性の確保」をもっと強調してもよい。『「1 安全性の確保」の優先度が高いものの、柱立て2～4とオーバーラップする部分もあり、総合的に整備していく。』というような旨を、前文で整理する方法もある。 |
| | 4 | 「人権尊重」に言及するような記載があったほうがよいのではないかと。安全性の問題はもちろん、トイレ、エアコンの問題等も人権に関わるものである。 |
| 施設整備の考え方に関する意見 | 5 | これまでの議論をふまえると、どの委員も「安全性が第一」と考えていると捉えることができ、それらを考慮すると「施設整備の考え方」はこのような構図となるのだろう。 |
| | 6 | 学校施設の整備について、まずは「安全性の確保」を最優先で進めるべきである。 |
| | 7 | 「改築」から「長寿命化」への転換という考え方は、適切。人口減少社会の中では、現在ある施設について、経済的負担を抑えて安全に改修していくということが大切であり、民間業者をはじめ様々な意見を吸い上げて検討していくことが重要だと思う。 |
| | 8 | どこまでの整備を行い、どこまで延命するのかという目途をたてる必要がある |
| | 9 | 全ての建物について診断を行わないと、建物ひとつひとつのレベルはわからない。また、全てレベルをあわせて整備することは困難 |
| | 10 | これまでの議論をふまえると、「基本的な整備水準」は、安全・安心や生活環境といった観点で示されることをイメージしていた。 |
| | 11 | ミニマムである「全ての学校が基準としてもつべき環境」に、「多様性・地域性」をどの程度盛り込んでいくのかということになるが、その境界は線引きできるわけではなく、それぞれの地域環境によって行き来する要素が多々あるということがイメージできると「施設整備の考え方」もまとまってくると思う。 |
| | 12 | 子どもたちのために最小限何をしなければならないのかというミニマムの部分から考えていく必要がある。理想を追い求めていても、実現は困難 |
| | 13 | 「3 多様なニーズへの対応を図る」は、幅が広すぎると感じる。「基本的な整備水準」に入ってくるものもこの中にはあると思われ、軽重をつけるなど、ある程度区別して整理すべきではないか。 |
| | 14 | 整備水準が統一されていないという現状、課題について、その原因もふまえて、次回審議会において、整備水準の方向性やイメージの案を示してほしい。 |
| | 15 | 熱中症で倒れた児童生徒が一人でもいる以上、エアコンは快適性の問題ではなく、安全性の問題であると考えます。 |
| | 16 | 仮に「教育情報ネットワークシステムの更新」に係る予算を充てた場合、エアコンはどの程度整備することができるのだろうか。クールビズ期間が半年あることなどもあり、せめて小学校の普通教室にはエアコンが整備されてもよいのではないかと。 |
| | 17 | 「3 多様なニーズへの対応を図る」に入っている「エアコンの整備」について、調査によって、例えばコストの問題が相当解消されるという結果が出るのであれば、整備の優先順位が繰り上がる可能性もあるということ想定して議論してよいのか。 |

| 分類 | No. | 意見の内容 |
|---------------------|-----|--|
| 施設整備の考え方に 関する意見 | 18 | エアコンの問題について、冬季の利用もふまえた検討が必要。ストーブの使用による、COやCO ₂ 、PM2.5の問題等もふまえて総合的に検証すべき。 |
| | 19 | エアコンの問題について、整備費用や冷却効果の試算等は可能だと思うが、利用者の心地良さ等まで調査することは困難だろう。 |
| | 20 | 「エアコンがないことよりもトイレの臭いがきついことのほうが辛い」という声も多い。エアコンは2～3か月我慢すればいい問題であるほか、状況により保健室や図書室などを活用して教師が適切に対応してくれるが、トイレは1年中臭いの問題がある。床のドライ化等の老朽化対策を進めれば解決する問題なのではないか。また、トイレの悪臭により窓を開けることができず、結果として室内温度が上昇しているという意見も耳にする。 |
| | 21 | 太陽光発電設備や雨水利用施設について、長期的に考えると光熱水費の削減にもつながるため、調査・検討していく必要があると感じる。 |
| | 22 | ICT環境の整備は必要不可欠であり、ここに予算を計上している点はよいと思う。他都市のICT環境（児童生徒用のパソコン）の整備状況が比較できる資料があるとよい。 |
| | 23 | 「地域とともにある学校施設づくり」は大切だが、学校施設の整備は、「こどもたち」や「教育」のために行うものであり、まずはそこにしっかりと取り組まなければならない。 |
| | 24 | どのような理由であれ、一度整備したものは有効活用していくなど、施設・設備の効率的な使い方も考える必要がある。 |
| 学校視察会に関する 意見 | 25 | 「視察会」の開催については賛成である。 |
| | 26 | 「視察会」を今後の議論の参考とするのであれば、例えば、トイレの改修が進んでいる学校、エアコンが設置されている学校など、いくつかのパターンを見るべき。 |
| | 27 | 「視察会」として特定の学校を選定して視察を行うのではなく、各委員が個人的に学校と調整して見学を行うほうが、より自然な学校の姿を見ることができる。 |
| 施設整備・教育全般に 関する意見 | 28 | 老朽化が進んだ学校施設を多く抱える中では、理想を語るのではなく、現実的な予算の状況・見通し等をふまえて議論すべき。 |
| | 29 | 千葉市と規模的に近い政令指定都市について、予算状況の比較データ等が示されるとよい。 |
| | 30 | こどもたちは、未来を担っていく存在であり、国も市も教育予算に一層重点を置いてほしい。 |
| | 31 | PTAや地域からの寄附について、教育委員会から認められない事例があるが、柔軟性をもって効率よく対応ができたほうがよい。 |
| | 32 | 例えば、空調代という形で費用負担を求めることや、積立てを行うなど、ある程度受益者負担という考え方も必要ではないか。 |
| | 33 | 給食室を改修している学校について、こどもたちが各家庭から弁当を持参しているという話を聞いたが、様々な家庭がある中で、格差や栄養面の問題への配慮も必要ではないか。 |